

第13回ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰

職場のやりがい支え



「ひょうご仕事と生活センター ワーク・ライフ・バランス フェスタ」が11月18日、神戸市の兵庫県公館で開かれた。勤労者がやりがいを感じ、かつ多様な生き方を選択しながら働ける仕組みを先導的に導入している12の企業・団体が表彰された。その取り組み内容を紹介する。

12企業・団体が受賞



オンラインでの情報交換やデータ共有ができるツールを駆使し、無駄な紙と時間の削減を進めている。

クボタ本社阪神事務所は2019年、育児中の社員が働きやすいよう、従来の「8時半～17時」に加え、「6時半～15時」と「10時半～19時」の間で、始業時間を30分ごとにずらした九つの中から勤務時間帯を選べるようにした。

勤務時間帯9パターン

オンラインでコミュニケーションやデータ共有が可能。可能なグループウェアも導入。これにより紙データの削減も促された。「使用頻度が高い書類についてはすべてデータ化をして、オンライン上で検索できるようにし、それを探す時間が大幅に削減された」と業務部長の岩本憲昭さん。

株式会社クボタ本社阪神事務所 (尼崎市)



表彰を受ける受賞企業の代表者ら

藤元彦知事は「職員にスマートな仕事を」と呼び掛け、知事自身が率先したデジタル技術の活用、ワーケーションを実践し、ワーク・ライフ・バランスを進めている。皆さんには働き方改革の輪をさらに広げていただきたい」と呼び掛けた。慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の前野隆司教授が講演し、従業員の幸福度を上げる働き方の大切さを強調した。

「仕事がつづく、残業が多い電気工事士のイメージを変え、誇れる仕事に」という上林将経社長の思いから、7年前に同社の業務改革が始まった。

株式会社上林電気商会 (明石市)



7年前に始まった業務改革。社員一人一人の性格や得意不得意を分析、最適な業務の割り当てを行った。

職人が誇れる仕事に改革

員が主体になって運営する委員会活動の設置だ。環境整備委員会では、メンバーから匿名で意見を募るやり方で本音を引き出し、あらかじめ残業申請書を提出する仕組みを考え、無駄な残業の削減につながった。

(明石市)



社内保育所「キッズランド」で男性社員が迎え。一時保育はいつでも利用できる。

育休からの復職率100%

仕事と生活を両立させる意識を浸透させるため、男性社員に育児参加の重要性を理解してもらおうと、研修などを通じて各種制度の周知、育休の利用を呼び掛けている。15年度にはゼロだった男性社員の育休取得者数は18年度以降、毎年1～6人が取得している。

JCRファーマ株式会社 (芦屋市)



これから産休を取得する社員にサプライズで行われた安産を祈るパーティー「ベビーシャワー」。

働く時間は本人が決める

いなかった」と反省し、考え方を180度転換。1人採用したことをきっかけに、「働く時間は会社が決めるのではなく、働く本人が決める」働き方を導入。年次有給休暇取得についても分単位で取れるようにした。

社会保険労務士法人オフィスねこの手 (加古川市)



長時間勤務が常態化していたデザイン部門。チーム化・情報共有に取り組み属人化の解消に注力した。

仕事の質高め残業も削減

改善すれば、時間の短縮につながるのだから、全部門が参加する定期的なミーティングで話し合い、実行に移っていた。

大和美術印刷株式会社 (姫路市)



建設現場で活躍する社員。若手会議の設置やICT化推進で離職率が低く推移している。

若手会議で意見を拾う

若手メンバーに任せている。最近では、若手会議の意見が採用され、名刺管理ソフトを導入。現在は来年度のユニホーム更新に向けて議論が進められている。

株式会社香山組 (尼崎市)